

TC 通信

No 109 2023年1月号

- ◆ティーンズ世代=10代のための読書情報誌です。
- ◆ご紹介する本は特に記載がない限り、図書館3階ティーンズコーナー所蔵です。



ティーンズコーナーに新しく入った本からピックアップ。



『こはなへようこそ!』

落合 由佳/著 PHP研究所 913/ヒエ/22

「こはな」は町の小さなお弁当屋さん。でもここはちょっと変わったお弁当屋さんです。

実はどんな願いも叶うお弁当?を作ってもらえるお店なんです。

1対1の早食い勝負に絶対勝つためのお弁当とか、ふられるほどおいしくなっちゃうお弁当(ハートを撃ち抜くお弁当)やTSUNDERE BENTO、はたまた仕返しお弁当や終末のお弁当なんていうのもあります。えっ、それ何?どんなお弁当なの?って思うかもしれませんが、読んでみるとなるほど!!なんです。しかも店長はイケメン!?

こんなお店が近くにあって、絶対行きたくなっちゃいますよね

この本は、ティーンズコーナーにたくさんある“5分間ノンストップショートストーリー”シリーズの1冊で、1話1話が短いのでサクサク楽しく読めますよ。



極め道

『完本 仏像のひみつ』

山本 勉/著 川口 澄子/イラスト 朝日出版社 718/カ/21 南部

※ティーンズコーナーには『仏像のひみつ』718/フ/06(2006年出版)を所蔵しています。

お寺に行くと必ず会える「仏像」。派手だったり地味だったり、穏やかな顔だったり怖い顔だったり、なぜかパンチパーマみたいな髪型だったり。いろんな「仏」像がありますよね。本書は、そんな仏像のヒミツをわかりやすく教えてください。

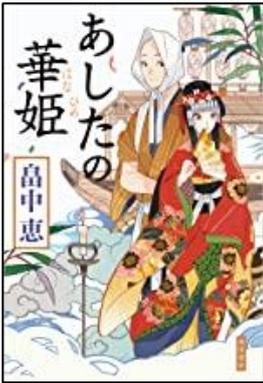
仏像には組織があり、その組織ごとに姿や雰囲気が違うこと。いろんなキャラクターがいること。仏像の体形の変遷、仏像の素材、そして…仏像の中には何かが入っていること!

読めば読むほど知りたくなる、とっても深くて面白い仏像の世界。いろんな仏像に会いに行きたくなる本です。

テーマ 芸

芸は、習うもの、身につけるもの、修練するもの、生まれ持つもの、才能も関係するかも。

こちらの本を読んで、芸とは何か考えてみませんか？



『あしたの華姫』 畠中 恵/著 KADOKAWA F/ハタ/20 4階一般

舞台は江戸、両国。人形遣いの月草と姫様人形のお華（木偶人形）のお話。「お華には特別な力がある」「真実を語る」との話が広がって、“まことの華姫”だともつぱらの噂。それに引き換え人形遣いの月草は、彼が華姫を操っているにも関わらず、華姫ばっかりみんなに頼りにされるので、ちょっといじけてしまっています。

そんな二人(?)に、両国一帯を取り仕切る親分の跡目争いが持ち上がり、親分の娘のお夏と華姫は大の仲良しということもあり、問題を解決してほしいと依頼が入ります。さてさて二人は無事に解決できるでしょうか・・・。

この作品は畠中恵さんらしい、楽しい時代小説です。

『14歳からの文楽のすゝめ』

竹本 織太夫/監修 実業之日本社 777.1/シ/22

江戸時代から続く人形芝居の伝統芸能、文楽。すべての登場人物のセリフや場面説明を声で担う「太夫」、心理描写や場面転換を音で表現する「三味線」（太夫と三味線はなんと各一人！）、生きているかのように人形を操る「人形遣い」の三業一体で確立された、日本独自の総合芸術です。

この本では、ちょっと敷居の高そうな文楽の世界を、親しみやすく紹介しています。

豊富な図や写真、太夫と人気声優との対談、10代の悩み解決のヒントを名作とともに紹介するなど、もりだくさんの内容。もちろん、文楽の入門書として、その歴史、人形や舞台のこと、チケットの入手方法まで、わかりやすく説明されています。



『ゼロから分かる！図解落語入門』

稲田 和浩/文 世界文化社 779.1/セ/17 3階実用

江戸時代、庶民向けの身近な演芸として人気を博した落語。座布団の上で、身振り手振りで一人で何役も演じ切る究極の話芸である。道具は主に扇子と手ぬぐいだけと実にシンプル。扇子は箸、筆、半開きでそろばん等、手ぬぐいは財布、煙草入れ、本等に見立てられ聞き手の想像力で物語の世界が無限に広がるのだ。おもしろおかしい噺が原点になっていて、誰もが気軽に楽しめる。

本書は「そもそも落語って何？」と思っているあなたに、落語の基礎知識から意外な豆知識まで、てんこ盛りの一冊となっている。細かく丁寧なイラスト入りで、演目や登場人物、現在の落語界の紹介、ワード集まであり、入門書としてはうってつけ。落語の世界を存分に楽しんでね。



『カブキブ! 1』

榎田 ユウリ/著 KADOKAWA/角川文庫 F/エタ/15-1

祖父の影響で歌舞伎好きになった来栖黒悟。通称クロ。高校に歌舞伎部を作ろうとしますが、すぐに部活は作れず、まずは同好会を発足することに。しかしその同好会を作るにも人数が足りないから作れない…。そこで親友のトンポとともに人数集めに奔走します。歌舞伎役者の子と噂される子、演劇部の花形部員、日本舞踊師範を母にもつ子などに声をかけますが、全然人は集まらず…。果たして無事、歌舞伎部（まずは同好会だけ）を作ることができるか…。

話がポンポンッと軽快に進むのでとても読みやすい作品。演目の説明も入っていたり、歌舞伎のセリフが太字になっていたりと勉強にもなります。太字の部分を読むときにそれ風に読んでみるのも面白い。実際に歌舞伎を見てみたくなる小説です。全7巻ですので、続編も併せて読んでみてくださいね～☆



*** がんばれ受験生！ ***



『きみの鐘が鳴る』

尾崎 英子/作 ポプラ社 913/ホフ/22 3階児童

クラスメイトと距離を置きたくて転塾試験を受けたつむぎは、新しい塾で、涼真、唯奈、伽凜に出会います。小学6年生の4人は、それぞれの悩みや葛藤を抱えながら、中学受験に挑みます。

物語に登場する塾「エイト学舎」の塾長は言います。「自分のために進んでいるんだ。自分のために頑張っているんだ。そう思えたら、それはただ苦しいだけの道にはならない。」

これから迎える受験シーズン。受験の合否にかかわらず、高校受験をするあなたにも、大学受験をするあなたにも、この先の未来に祝福の鐘がなりますように！



画家アンリ・ルソー。彼の描く人物や風景は、遠近感がなく、細部までとても几帳面に描かれ、まるで時間が止まったように見える。その完成度と芸術性の高さは、ピカソが絶賛し、今では近代美術の巨匠として多くの人に愛されているという。

①はルソー自身の言葉で綴る生涯と作品をまとめた画文集。②は美術評論家・山田五郎氏が絵にツッコミを入れながら、ルソーの「へん」を真面目に解説する。③は「ルソーの夢」という形にまとめたセンスの良い絵本。④は彼の代表作『夢』を題材にした美術ミステリー。

どれもルソーの不思議な魅力が満載である。

①『アンリ・ルソー 〈自作を語る画文集〉

楽園の夢』

アンリ・ルソー/画と文

八坂書房

728. 8/ア/15 4階一般



②『へんな西洋絵画』

山田 五郎/著

講談社

728/へ/18

4階一般



③『ルソーの夢

イメージの森のなかへ』

利倉 隆/構成・文

二玄社

728. 8/ル/07



④『楽園のキャンバス』

原田 マハ/著

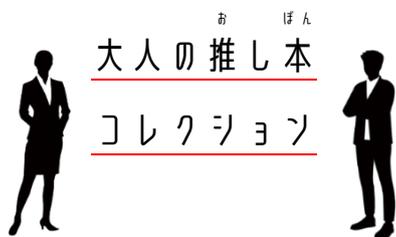
新潮社

F/ハラ/11

4階一般



大人の お 押しコレ



お ぼん
大人の押し本
コレクション

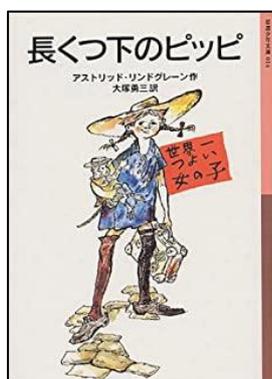
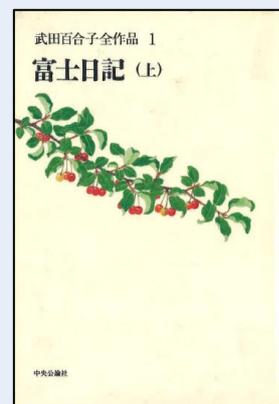
『武田百合子全作品 1 富士日記(上)』

武田 百合子/著 中央公論社 914.6/タケ/×1 閉架一般

「富士日記」は、夫で作家の武田泰淳と富士山にある山荘で過ごした日々の出来事が日記として綴られている。

自分の正直な気持ちを書いた文章からは、笑い声や怒った声が聞こえてくるよう。雑貨屋での買い物の値段や朝の食事のメニューなどが書かれていて、日記ゆえの簡潔な文章なのに、どんどん読み進めていきたいと思わせる。

武田百合子は、天衣無縫でちょっとやんちゃ、だから魅力的に映る。この全集(全7巻)は、それぞれ表紙の絵が違って、それも素敵だと思っている。



名作 たからばこ



『長くつ下のピippi』 アストリッド・リンドグレン/作

大塚 勇三/訳 岩波書店 94/イワ/18 3階児文

ニンジン色の髪の毛をきつく編み上げた2本のおさげに、鼻はちっちゃなジャガイモで、そばかすがいっぱい顔をした、最強女子・ピippi(9歳)の物語です。

お母さんを早くに亡くし、お父さんも海で行方不明になったことから、9歳にして「ごたごた荘」というお家で一人暮らしています。持ち前のちからと明るさで日々を過ごす、そんな生活を面白可笑しく描いています。

作者が自身の子どものせがまれて作ったお話ということで、現実ではなかなかおこりえないことが盛りだくさんに書かれていて面白いです。突然現れたピippiのことを自然と受け入れ友達になるトミーとアンニカの二人にも注目してほしい。

どの年齢の人が読んでも夢中になってしまうそんなお話です。

ティーンズコーナーで待っています！

ティーンズコーナーは、中高生(ティーンズ)世代向けに、さまざまなジャンルの本を集めたコーナーです。図書館3階の北側自動ドアから入り、まっすぐ進んだ先の左側の本棚にあります。看板が目印！

悩み解決のヒントになる本、知識を深める本、趣味を広げる本など、児童書よりもステップアップした内容のものや、10代の皆さんにおすすめの読み物を用意しています。

「〇〇について調べたい！」
「△△の本はどこ？」など、
本に関する相談や探し物は
職員に気軽に聞いてみてね。



発行：春日井市図書館

愛知県春日井市鳥居松町5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.kasugai-lib.jp/>

※表紙画像の掲載にあたっては出版社から許諾を得ています。